

立莖初期にアスパラガス莖枯病を抑えるには

立莖直後から短い間隔で薬剤散布を行う

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

1 部門名

野菜－アスパラガス－病害虫防除

2 担当者

畠有季・宍戸邦明

3 要旨

アスパラガス莖枯病に対しては、アミスター20FL(アゾキシストロビン水和剤)やダコニール 1000(TPN水和剤)の防除効果が高いが、各種薬剤の効果は1週間程度で大幅に低下することを確認している。本病は、萌芽直後2週間以内の莖では特に感染しやすいことから、立莖後の防除が重要である。

そこで、立莖後の散布開始時期を早め、散布間隔を短縮した防除法の有効性を検討した結果、立莖 2 日後から散布を開始し、立莖後 2 週間は、約 3 日間隔に短縮して散布を行うことにより、立莖 50 日後において高い防除効果が認められた(図1)。

立莖直後の感染しやすい時期には、上記の特に効果の高い剤などをローテーション散布すること、また立莖直後から集中的に薬剤散布を行うことが重要と考えられた。

表1 薬剤のローテーションと散布日

区											
立莖直後3日 間隔散布	立莖 (5/13)	ダコ → アミ → ベル → アミ → ダコ →→	※	—————>							
		(5/15) (5/19) (5/22) (5/25) (5/28)									
3日間隔散布		ダコ → アミ → ベル → アミ → ダコ →→	※	—————>							
		(5/20) (5/24) (5/27) (5/30) (6/2)									
7日間隔散布		ダコ →→ アミ →→ ベル →→ アミ →→ ダコ →→	※	—————>							
		(5/20) (5/27) (6/3) (6/10) (6/17)									

「→」は3~4日間隔、「→→」は7日間隔

※以降はコサイド3000とベンレート水和剤を交互に散布(7日間隔)

ダコ：ダコニール1000 (TPN) アミ：アミスター20FL (アゾキシストロビン) ベル：ベルクート水和剤 (イミノクタジン)

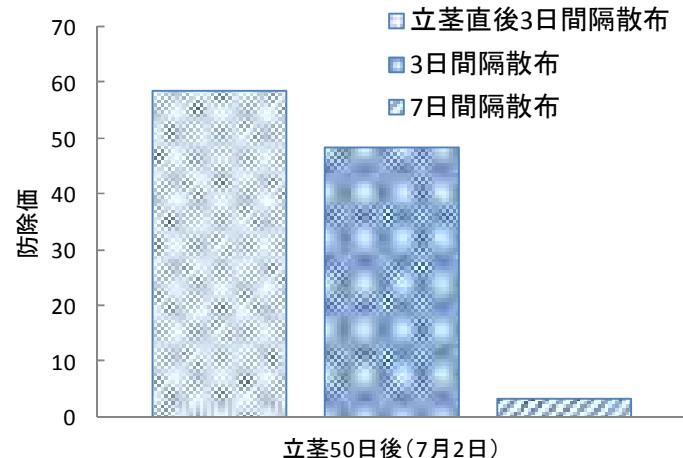


図1 敷布方法の違いによる防除効果(立莖 50 日後)

注)防除率=(無処理区の発病度-試験区の発病度)/
無処理区の発病度×100

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～26年度
- (2) 研究課題名 総合的病害虫管理(IPM)による環境負荷軽減生産技術の開発
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

平成 25 年度センター試験成績概要、平成 23 年度試験成績概要(2011-C2-4-2-1-1)